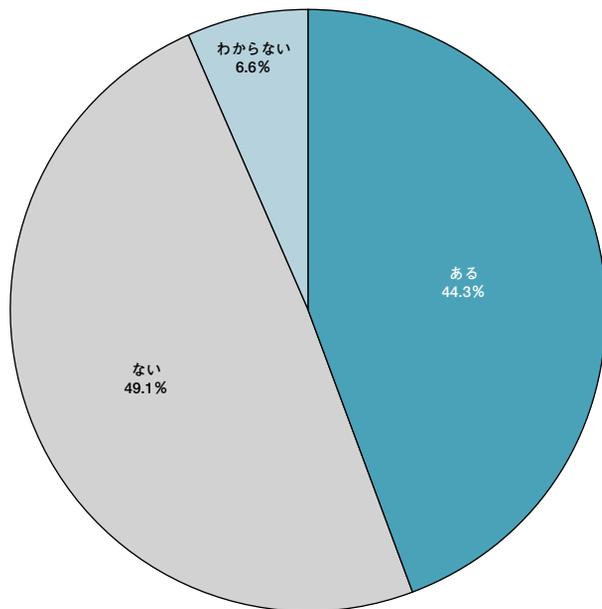


コンピュータウイルス

ウイルス感染メールを受信した人は44.3%

資料2-6-10 ウイルス感染メールの受信経験 N=1,969

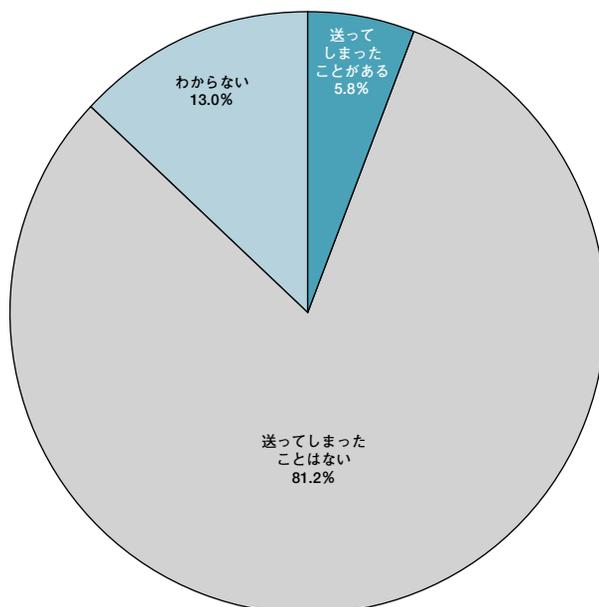


©Access Media/impress,2003

ウイルス感染メールは44.3%が「受信経験がある」と答えているが、感染しても気づかない例もある。なお、2002年以降はメール型よりセキュリティーホールを狙ったものが増えているという報告がある。

ウイルスメールの「送信者」になった人は5.8%

資料2-6-11 ウイルス感染メールの送信経験 N=1,969



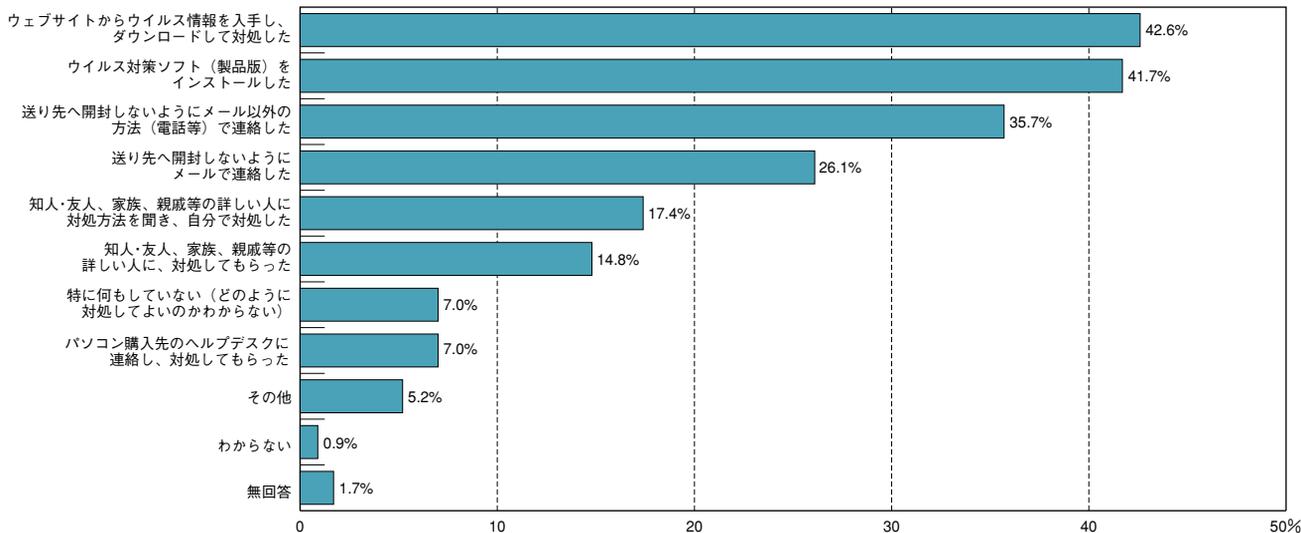
©Access Media/impress,2003

開封するだけで、アドレス帳に登録されている人に勝手にメールを送ってしまうという悪質なウイルスメールもある。誤って開封すると自分が「加害者」になってしまう。5.8%の人が自分も送信した経験があると答えている。

コンピュータウイルス

ウイルス対策はウェブの情報に頼り

資料2-6-12 ウイルス感染メール送信後の対処方法 N=1115

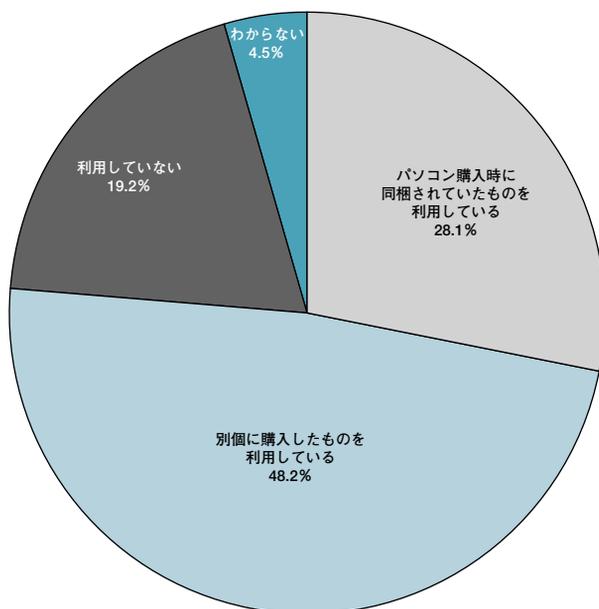


©Access Media/impress,2003

ウェブサイトからウイルス情報入手したり、ウイルス対策ソフトを導入したりした人がそれぞれ40%を超えている。送信後に「私からのメールを開封しないで」と相手に伝える場合もメール以外の手段で伝えた人のほうが多かった。

4人中3人がウイルス対策ソフトを導入済み

資料2-6-13 ウイルス対策ソフト利用の有無 N=1,969



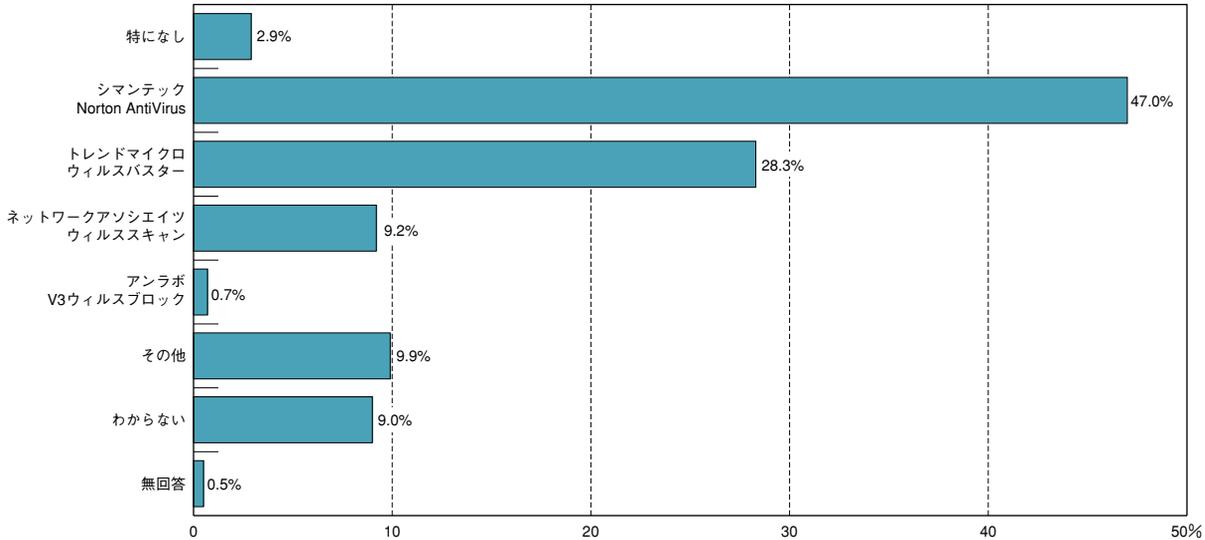
©Access Media/impress,2003

ウイルス対策ソフトを独自に購入している人は48.2%で、パソコンに同梱されていたソフトを利用している人を含めると76.3%がウイルス対策ソフトを導入済み。ファイアウォールソフトとは違って、ウイルス対策への関心の高さがうかがえる。

コンピュータウイルス

Norton AntiVirusとウイルスバスターで75.3%

資料2-6-14 利用しているウイルス対策ソフト製品 N=1,503

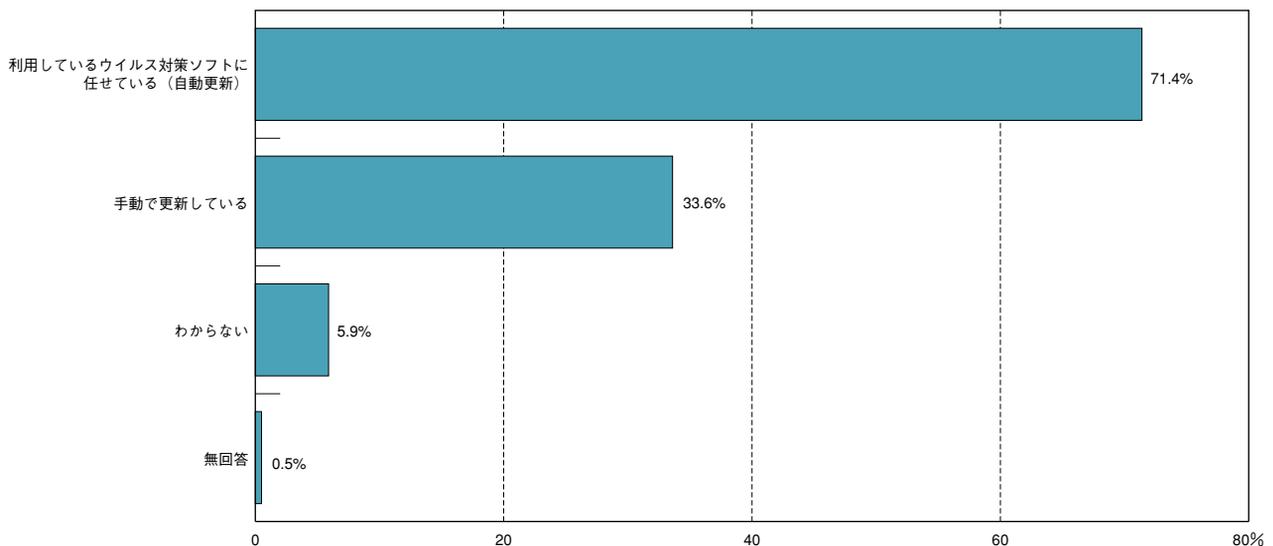


©Access Media/impress,2003

47.0%が「Norton AntiVirus」を導入しているほか、「ウイルスバスター」も28.3%。この2本で全体の4分の3を超える。ネットワークアソシエイツの「ウイルススキャン」も企業や官公庁などへの導入実績で強みを発揮している。

パターンファイルの自動更新も定着

資料2-6-15 ウイルス対策ソフトのパターンファイル更新方法 N=1,503



©Access Media/impress,2003

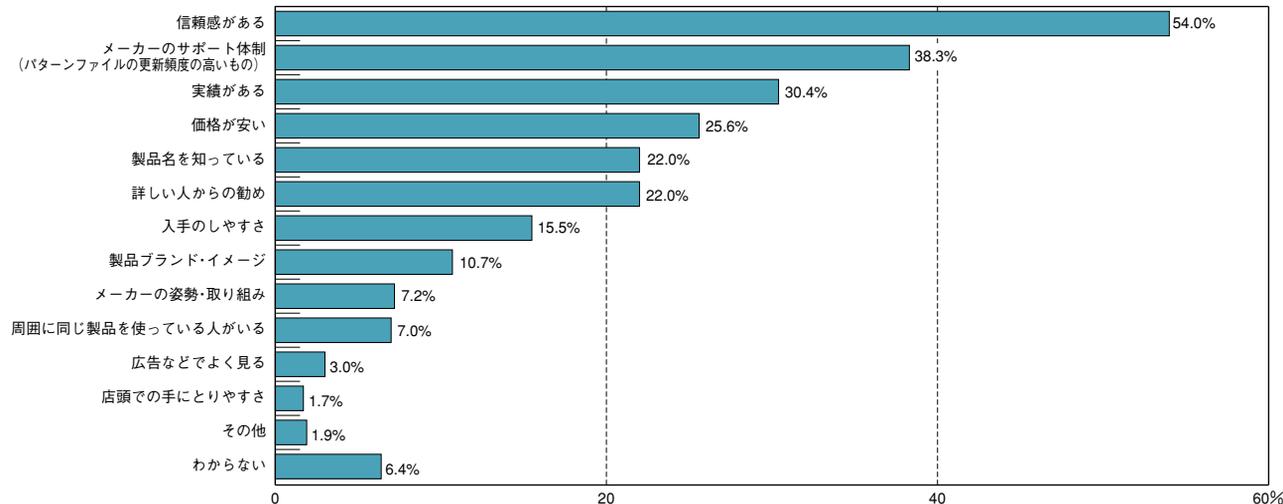
最新のウイルスに対抗するためには、ソフトハウスが提供するパターンファイルを定期的に更新するのが一般的である。71.4%がインターネット経由の自動更新を利用しているほか、手動でパターンファイルを更新している人も33.6%いる。

インターネット白書 / ©1996-2012 Impress R&D

コンピュータウイルス

「安さ」よりも「信頼感」「サポート体制」を重視

資料2-6-16 ウイルス対策ソフト購入の際の重視点 (3つまで) N=1,969

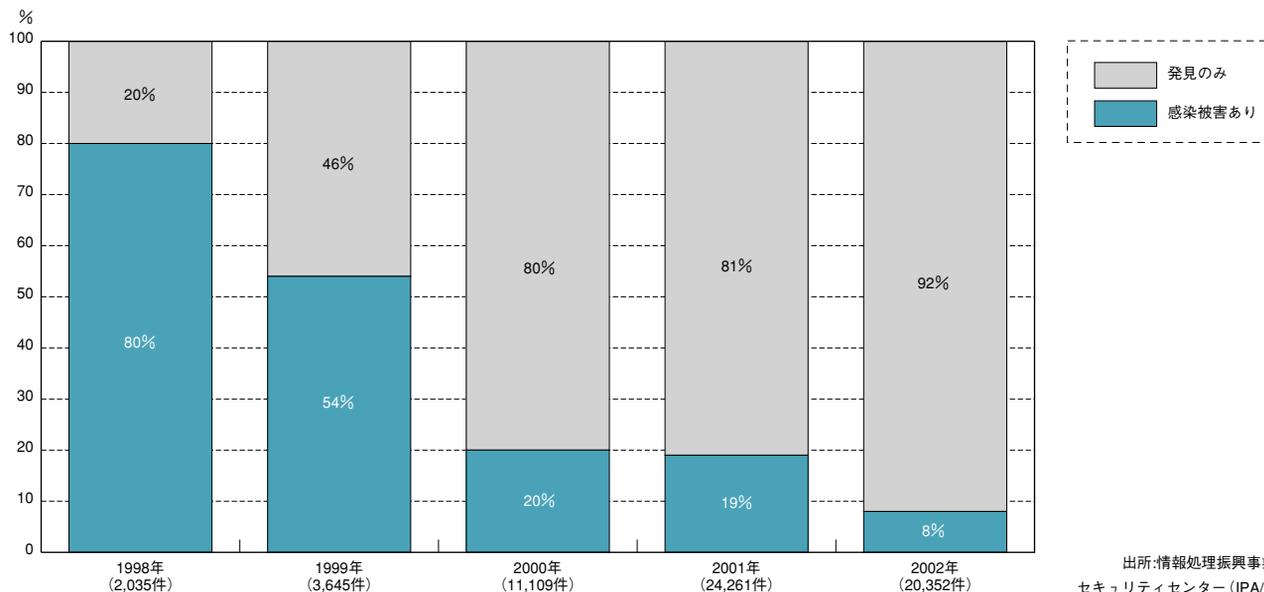


©Access Media/impress,2003

ウイルス対策ソフトを選ぶときの決め手になったのは、ソフトハウスの「信頼感」(54.0%)と「サポート体制」(パターンファイルの更新頻度、38.3%)、「実績がある」(30.4%)などで、「価格が安い」「製品名を知っている」を大きく上回った。

ウイルス対策が進み、実害率は減少傾向

参考資料2-6-B ウイルス届け出件数と感染被害の割合



出所:情報処理振興事業協会
セキュリティセンター (IPA/ISEC)

IPA/ISECへの届け出数のうち、2002年の実害は8%で92%は未然に被害を防いだとしている。ウイルスの種類では2001年に58.8%を占めていたメール機能を悪用するものが17.2%へと減少し、セキュリティホールを悪用したものが76.9%。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp